

小金井市政の現状と課題

平成15年から始まった都内の公立学校の学力テストでは、小学校と中学校共に小金井市が都内でトップとなり、その後もトップクラスを維持しています。合唱や吹奏楽、さらにスポーツにボランティア活動と、子どもたちの活躍が目立ちます。市立小中学校の耐震補強工事はすべて終わったものの、特に財政的な優遇措置をしているわけではなく、家庭と地域の力です。子どもが毎日安心して暮らせる生活が一番力の元になるのです。そのために地域の繋がりが大事です。

JR中央線の高架事業とともに始まった駅周辺の街づくりは、まず武蔵小金井駅南口の再開発から形になってきました。JR中央線の三鷹〜立川間の高架工事は、東京都が施行者になって実現し、都市計画決定されたのは平成6年5月でした。そして、この事業は単に線路を高架にするという目的ではなく、駅周辺の街づくりを進めるために南北を分断している線路を高架にするとすることを目的に行われることになりました。小金井市としても、なかなか進まない武蔵小金井駅南口の再開発と、東小金井駅北口の区画整理事業を駅周辺の街づくりとしてこの機会に行うこととし、進めてきました。



来春にまちびらきを迎える武蔵小金井駅南口

理由から第一地区・第二地区と分けて再開発を施行することになった区域の第一地区部分です。これらは一体の計画として進められてきたもので、第一地区は小金井市唯一のホールを有する公会堂を建て替え、第二地区には事業の成立のために市役所を建設する方針は、すでに平成12年に議会も推進して、市民説明会が行われてきました。

東小金井駅北口は区画整理で

東小金井駅北口の区画整理事業もいよいよ工事に着手するまでに至りました。東小金井駅は昭和39年に、地元地権者の方のご尽力により、地元要望で実現した請願駅です。当時小金井市は駅の誘致とともに区画整理をすることを求められていましたが、こちらも

東小金井市の方針です。又、公共施設をどう再編していくかも課題となっています。市民要望としては図書館や福祉施設の希望が多いようです。

武蔵小金井駅北口の将来は

そして、これからの課題は、武蔵小金井駅北口の街づくりです。現在は工事のために仮線の用地等に利用している東京都所有地がありますが、中央線の完成に向け、北口の駅前広場をどうするかプランを作る必要があります。その市は平成20年度に調査をします。その際、将来の北口の街づくりのあり方を探り、地元地権者や商店会とともに力を合わせて進めていく必要があります。

遅れた駅前整備、今着々と進んでいます



2008年12月5日発行 五十嵐京子を支援する会・小金井市本町3-18-19-312 電話042-1384-19920

五十嵐京子

小金井で元気に！小金井を元気に！

通信 第27号

駅前市民が集う拠点へ

駅前整備の遅れてきた小金井市にとしては、まず再開発を進めることが求められています。民間だけでは厳しい再開発を、公共施設を入れることで進めるというのが基本的な考えです。駅前の市役所は、市民にとって利便性に富むものですが、折角の立地を生かして、単に市役所機能だけでなく、市民が利用できる機能を入れようというのが小金井市の方針です。又、公共施設をどう再編していくかも課題となっています。市民要望としては図書館や福祉施設の希望が多いようです。



道路工事から始まった東小金井駅北口区画整理

元気な小金井の子どもたちは、まちの誇り

学校教育は「トップクラス」

平成15年から始まった都内の公立学校の学力テストでは、小学校と中学校共に小金井市が都内でトップとなり、その後もトップクラスを維持しています。合唱や吹奏楽、さらにスポーツにボランティア活動と、子どもたちの活躍が目立ちます。市立小中学校の耐震補強工事はすべて終わったものの、特に財政的な優遇措置をしているわけではなく、家庭と地域の力です。子どもが毎日安心して暮らせる生活が一番力の元になるのです。そのために地域の繋がりが大事です。



市制50周年で宮崎駿さんが製作したイメージキャラクターのこじんちゃん。「子どもが元気な町が発展するんです」とのコメントも寄せられた。

子どもの安全確保が行政の課題に

小さな子どもが被害者になる悲惨な事件が続くため、セーフティ教室を開いたり、市も子どもたちの安全には学校専門のパトロールをするなど取り組み

特別支援教育への取り組み

教育現場の課題はいくつもあり、昨年から発達障害を持つ子どもへの対応を充実させるための特別支援教育を行っています。

生涯学習も熱心

大人が関わる生涯学習も盛んです。公民館の利用率も高く、スポーツ活動も盛んな地域です。約20年前に東京都が行った高齢者の状況調査によると、小金井は元気な高齢者が多くその理由の一つに生涯学習やスポーツなど地域での活動が盛んことが上げられました。特に公民館には5館それぞれに企画実行委員会を設け、市民参加の企画が進められています。

課題は、施設の老朽化で、図書館も手狭になり、じっくり本を探したり、ゆっくりと過ごすスペースがないのが残念です。近隣市と比較しても公共施設が古くなってきているのが目立ちます。開館時間の延長は徐々に進んでいます。

迷走する福祉・医療制度



介護保険、障害者自立支援法、さらに今年始まった後期高齢者医療制度など、国の制度の動きが激しく、地方自治体はそれに振り回されているのが、今の実態です。福祉・医療に関してはあまり地域差があつてはならず、国民であればある程度のサービスは平等に受けられるようにという考えからですが、国の制度そのものが短い機関で見直しが行われる傾向が強く、後期高齢者医療制度はその典型的な例です。

地方自治体は生活の現場に近いことです。後期高齢者医療制度のスタートにあたって、東京では議会や各市が協力して国に意見を言い、保険料の軽減に努めました。これからも議会も行政も現場からの声を都や国に発言していく必要があります。

きの細かい対応が

地方の課題

介護保険も報酬の関係で担い手が不足するなど、制度上で解決をすべき課題もありますが、現場でのソフト面での対応はきめ細かく、また予防に力を入れた取り組みが重要と考えます。体力、気力ともに元気でいられる地域つ

子育て支援

貫井北町の子ども家庭支援センターを中心に、相談事業など様々な施策が展開されていますが、特に今年からは虐待への対応を強化しました。保育園も認証保育園の開所などで定数増が図られています。要望の多い駅前保育所などニーズに応えた対応が必要です。



平成20年10月に開所した西地域包括支援センター